

領域「健康」に着目した幼児教育の カリキュラム・マネジメントに関する一考察

黒原 貴 仁
(児童学科講師)

廣瀬 勝 弘
(京都産業大学教授)

本稿では、幼稚園における生活の全体を通じて、取り分け領域「健康」と関わりが深い活動に焦点をあて、カリキュラム・マネジメント構築を目指し、幼稚園教育要領「健康」のねらいに基づいて作成した対象園の具体的内容の作成とカリキュラム編成に反映する手がかりになる園の実態に即応した目指す幼児像の明確化について考察する。

キーワード：幼児教育，領域「健康」，カリキュラムマネジメント，目指す幼児像

1. はじめに

平成28年幼児教育部会における審議の取りまとめによると、「幼児教育において育みたい資質・能力の実現に向けては、幼稚園等において、子供の姿や地域の実情等を踏まえつつ、どのような教育課程を編成し、実施・評価し改善していくかというカリキュラム・マネジメントを確立することが求められる。」と報告された。また、「幼稚園等では、教科書のような主たる教材を用いず環境を通して行う教育を基本としていること、家庭との関係において緊密度が他校種と比べて高いこと、預かり保育や子育て支援などの教育課程以外の活動が、多くの幼稚園等で実施されていることなどから、カリキュラム・マネジメントは極めて重要である。」と記述されている。

このため、幼稚園等においては、以下の3つの側面からカリキュラム・マネジメントをとらえる必要がある。

- ①各領域のねらいを相互に関連させ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校の学びを念頭に置きながら、幼児の調和の取れた発達を目指し、幼稚園等の教育目標等を踏まえた総合的な視点で、その目標の達成のために必要な具体的なねらいや内

容を組織すること。

- ②教育内容の質の向上に向けて、幼児の姿や就学後の状況、家庭や地域の現状等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、家庭や地域の外部の資源も含めて活用しながら効率的に組み合わせること。上述した3つの側面からカリキュラム・マネジメントを構築し、各幼稚園等では、幼児の実態等を踏まえた教育課程を編成し、保護者および地域と共に実施し、改善・充実を図る必要性が求められている。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは、「1.健康な心と体」、「2.自立心」、「3.協同性」、「4.道徳性・規範意識の芽生え」、「5.社会生活との関わり」、「6.思考力の芽生え」、「7.自然との関わり・生命尊重」、「8.数量・図形、文字等への関心・感覚」、「9.言葉による伝え合い」、「10.豊かな感性と表現」の10項目と示され、資質・能力といった子どもの成長を促すことで、幼小連携の視点が見出せると考えられる。

カリキュラム・マネジメントの実施は、めまぐるしく変化する現代社会のニーズに応じ、速

やかに教育活動を改善する意図がある。幼稚園教育要領においても「評価」とあるが、小学校以降の学習目標とは異なる。幼稚園教育要領第1章第4指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価では、「幼児教育に基づいた評価の実施」(1)指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにすること。その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。(2)評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的かつ計画的な取り組みを推進するとともに、次年度又は小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにすること。とされている。

つまり、幼稚園における「評価」とは、幼児を他の幼児と比較して優劣をつけることや一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではなく、幼児の発達する姿がどのように変容しているかを検討すること、教師の指導が適切であったかどうかを反省・改善することの両面について行うことであると考えられる。

鈴木ら(2017)は、幼児教育・保育におけるカリキュラム・マネジメントの適切な実施について調査し、システム・形式の工夫と内容の工夫に分けてまとめた。その結果、指導計画の作成、反省・評価の両方において幼稚園教育要領の5領域を踏まえることが重要であるとし、幼児教育において改めて各5領域に焦点を当てる必要性を指摘した。

幼稚園教育は幼児の生活を通して総合的に指導されなければならないが、各領域の意義づけを理解し、幼児の発達を踏まえた実践と評価を行い、指導内容を計画・改善する必要があると考える。

幼稚園においてカリキュラム・マネジメントを実施することは、最も中核的な仕事の1つであると考えられる。しかし、現場の教職員は、日々の業務に加え、活動全ての子どもの記録やドキュメンテーション、ポートフォリオなどの評価の参考となる膨大で精密な情報を蓄積し、

かつPDCA(計画—実行—評価—改善)サイクルを実施することは、非常に手間のかかる作業であり困難を極めることは容易に想像できる。

以上のことから、本研究では、幼稚園における生活の全体を通じて、取り分け領域「健康」と関わりが深い活動に焦点をあて、カリキュラム・マネジメント構築の検討を試みた。

2. 研究の目的及び方法

本研究は、対象であるB幼稚園の教職員と研究者X(教員養成校歴10年)が、幼稚園における生活全体の活動内容から取り分け領域「健康」と関わりが深い活動について、4回の検討会を開催し、カリキュラム・マネジメントの実現化を目指すことを目的とした。

研究対象は、A市にある幼保連携型認定こども園B幼稚園の教職員数35名(正規および非正規、事務職員含)である。

なお、B幼稚園の規模は、全幼児225名(年長児53名、年中児68名、年少児53名、満3歳児18名、満2歳児5名、1歳児5名、0歳児2名)である。

無藤(2017)は、カリキュラムマネジメントを進めるにあたってのポイントとして、①各領域のねらいを相互に関連させ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校の学びを念頭に置きながら、子供の調和の取れた発達を目指し、幼稚園等の教育目標等を踏まえた総合的な視点で、その目標の達成のために必要な具体的なねらいや内容を組織すること、②教育内容の質の向上に向けて、子どもの姿や就学後の状況、家庭や地域の現状等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること、③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、家庭や地域の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること、としている。

また、横松(2017)は、幼稚園と保育所及び認定こども園のカリキュラム・マネジメントについて、①国の教育課程基準の実現と特色のあるカリキュラム創りを可能にする、自園の保育の目標・ねらい・内容の連携性を確保するとい

う側面、②教育課程のPDCAサイクルを回すという側面、③教育内容を決定した後、実際の保育を創造していく際に、職員同士、あるいは職員と保護者や地域の人々等とが協働して、内外の物的資源等を効果的に活用する側面の3つの側面からとらえることが必要であると述べている。さらに、研究者の協働手順全体の構想を、①実効のある保育目標明確化の段階、②教育課程編成から期間指導計画作成に至るまでの段階、③帰還計画を羅針盤にしなが短期指導計画を柔軟に作成・変更しつつ保育を実践する段階、④期間指導計画と年間指導計画と教育課題を評価・改善する段階、と定めている。

上述したことを踏まえ、本研究では、まずB幼稚園の教職員とともに、カリキュラム・マネジメントの構築を目指す上での問題点を抽出し、建学の精神及び教育方針、幼稚園教育要領のねらいと内容について検討した。さらに、満3歳児クラス～年長児クラスごとに、幼稚園教育要領「健康」のねらいに基づいて作成したB幼稚園の内容の作成を図った。

次に、B幼稚園生活の全体の活動について、クラスごとに、幼稚園教育要領「健康」のねらいに基づいて作成したB幼稚園の具体的内容の作成と実際に取り組んでいる内容を確認し、状況を評価し、次回のカリキュラム編成に反映する手がかりになると考える、B幼稚園の実態に即応した目指す幼児像の明確化を図った。

3. 結果と考察

3. 1. 検討会での経過と議論内容

第1回目の検討会では、B幼稚園においてのカリキュラム・マネジメント構築の問題について、議論が行われた。その結果、①教育課程の理解の曖昧さ、②幼稚園教育要領における領域「健康」のねらい及び内容と、B幼稚園の建学の精神と教育方針と活動内容の関係性、③各クラスで実際に行われている活動の不透明さ、④領域「健康」のねらいと内容に即応した評価及び改善の困難さ、以上の4つの側面が問題視された。そこで、B幼稚園の建学の精神及び教育方針を確認し、幼稚園教育要領における領域

「健康」との内容の連携性を検討し、同時に教育課程の理解を実施した。

第2回目の検討会では、各クラスで実際に行われている活動について、取り分け領域「健康」と関わりが深いと思われる活動内容を抽出し、各クラスでの幼児の姿の確認を行なった。

第3回目の検討会では、幼稚園教育要領における領域「健康」のねらい及び内容に基づいたB幼稚園におけるねらいと内容を検討し、簡潔にまとめる作業を行なった。

第4回目の検討会では、第1回目から第3回目までの検討会の成果を受け、B幼稚園の実態に即応した「目指す幼児像」の明確化を図った。

3. 2. B幼稚園の建学の精神及び教育方針と領域「健康」との検討

表1は、B幼稚園の建学の精神及び教育方針である。年齢別に横割りのクラス編成を行い、各年齢に適したカリキュラムを設定している。

運動あそびについても積極的に取り入れており、毎週授業中に体育（かけ足、縄とび、リズム運動、器械体操等）を取り入れ、専門の教師と担任教師がチームを組んで指導している。また、心身の健康のため、夏から秋にはハダシ運動、冬には持久走を取り入れ、強くたくましい身体づくりに力を入れている。

このように、教育活動全体として、領域「健康」と関連性が深い教育内容を充実させることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校の学びを念頭に置きながら、幼児の調和の取れた発達を目指し、資質・能力といった子どもの成長を促すことを教育方針として示している。

表1 B幼稚園の建学の精神及び教育方針

心身共に健康で豊かな人間性とたくましい生活力を持つ子の育成 (1)元気な子、(2)心豊かな子、(3)仲良くする子頑張る子 心のふれ合う幼稚園・環境の整った幼稚園・地域と共に生きる幼稚園

表2は、幼稚園教育要領における領域「健康」のねらいである。

幼児期の教育は、安全な環境下で、体を十分に動かして生活することによって培われていくものとしている。また、健康的な幼児は、単に身体を健康な状態に保つことを目指すことではなく、他者との信頼関係の下で情緒が安定し、伸び伸びと自分のやりたいことに向かって取り組めるようにすることであるとしている。

幼稚園においては、教師や友達との温かい触れ合いの中で楽しい生活を展開することや自己を十分に発揮して伸び伸びと行動することを通して充実感や満足感を味わうようにすることが大切としている。さらに、能動的に環境と関わり、自己を表出しながら生きる喜びを味わうという内面を充実させ、自己充実に関わるものであるとしている。

このような健康な心は、進んで運動しようとする態度、自分の体を十分に動かし、幼児が体を動かす気持ちよさを感じることを通じて、進んで体を動かそうとする意欲などを育てることが大切であるとしている。

自分の体を大切にすること、身の回りを清潔で安全なものにするなどの生活に必要な習慣や態度を、生活の流れの中で身に付け、次第に生活に必要な行動について、見通しをもって自立的に行動していくようにすることも重要なことであるとしている。

表2 幼稚園教育要領における領域「健康」のねらい

<p>[健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。]</p> <p>(1)明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</p> <p>(2)自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</p> <p>(3)健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。</p>

表3は、幼稚園教育要領における領域「健康」の内容である。この内容は、ねらいを達成するために指導する事項であり、幼児の発達の側面としてまとめ示されたものである。

B幼稚園の建学の精神及び教育方針と、幼稚園教育要領における領域「健康」のねらい及び内容を検討すると、教育活動全体を通じて、幼

児が様々な経験を積み、具体的な活動を通じて幼稚園教育の基本を逸脱することなく指導されていた。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれるように留意されていた。

しかし、検討会の全体を通して、クラスごとの幼稚園教育要領「健康」に基づいたB幼稚園の内容についての指針や具体的な目指す幼児像の不透明さが反省点として挙げられた。

そこで、幼稚園教育要領「健康」のねらいとそれに基づいて作成したB幼稚園の内容をまとめ、実際に実施した活動内容と幼児の様子から目指す幼児像について検討を図った。

表3 幼稚園教育要領における領域「健康」の内容

<p>(1)先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。</p> <p>(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。</p> <p>(3)進んで戸外で遊ぶ。</p> <p>(4)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</p> <p>(5)先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。</p> <p>(6)健康な生活のリズムを身に付ける。</p> <p>(7)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。</p> <p>(8)幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。</p> <p>(9)自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。</p> <p>(10)危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。</p>

3. 3. B幼稚園の満3歳児クラスにおける目指す幼児像の明確化に向けた取り組み

満3歳児における幼稚園教育内容「健康」のねらいとそれに基づいて作成したB幼稚園の内容を示し、実際に実施した活動内容と幼児の様子から目指す幼児像の明確化を図った(表4)。

幼稚園教育内容「健康」のねらいとそれに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。」のねらいに基づいて、「基本的な運動動作(またぐ・蹴る・投げる・引っ張る・転がる・ぶら下がる)や、指先を使った遊びを楽しむ。」「園生活の

表4 B幼稚園の満3歳児における活動内容と実際の幼児の姿及び目指す幼児像

ねらい	幼稚園教育要領「健康」の内容に基づいたB幼稚園の内容	実施した活動内容	実際の幼児の姿	目指す幼児像
明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	○基本的な運動動作（またく・蹴る・投げる・引っ張る・転がる・ぶら下がる）や、指先を使った遊びを楽しむ。 ○園生活の仕方を知り、楽しく遊ぶ。	・新聞紙遊び ・整列して歩く ・ブロックを跳び越え ・だるまさんが転んだ	・自分から「運動がしたい！」と言う意欲が見られた。 ・だるまさんが転んだでは、急に動く、急に止まることもできるようになり、教師の声をよく聞こうとする姿勢が身に付いた。	○基本的な運動あそびを楽しむ。 ○園生活に慣れる。
自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	○遊具や用具を使って、体を動かす遊びを楽しむ。	・ボール投げあそび ・水あそび	・投げる距離がのび、飛んできたボールを避けられるようになった。 ・楽しみながら運動する姿が見られた。 ・自分からみずに顔をつけるようになり、シャワーも嫌がらなくなった。 ・水遊びへの意欲が高まり、水着への着替えもできるようになった。	○体を動かす遊びを楽しむ。
健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	○食べ物への興味関心を持つ。 ○自分から身の回りを清潔にしようとする。 ○体の異常を自分から訴えようとしたり、危険な遊びや場所に気付いたりする。 ○衣服や靴を自分で着脱し、畳んで所定の場所に片付けられるようになる。 ○決まりや約束を守り、友達や教師と楽しく遊ぶ。	・給食 ・雑巾かけ ・タイヤの山を登る ・上着を着る ・靴を履く ・転ぶ練習 ・避難訓練	・上手に食べられない子どももスプーンなどを使い残さずに食べようとしている。 ・暑くなったら上着を脱ぐなど、自分の体調に合わせて行動する姿勢が見られるようになった。 ・転ぶ練習をすることによって、外遊びや持久走大会、運動会で転んで大きな怪我をすることが少なくなった。 ・避難訓練を通して、危険を怖がっていた。 ・教師の話の聞こうとする態度が身につく、危険なときに自分の身を自分で守ろうとする姿が見られた。	○食べ物に興味を持つ。 ○身の回りを清潔しようとする。 ○体の異常を表現しようとする。 ○衣服の着脱を自分でしようとする。 ○衣服をたたもうとしたり、片付けようとしたりする。 ○約束を守ろうとする。

仕方を知り、楽しく遊ぶ。」とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「基本的な運動あそびを楽しむ。」「園生活に慣れる。」が抽出された。

「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。」のねらいに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「遊具や用具を使って、体を動かす遊びを楽しむ。」とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「体を動かす遊びを楽しむ。」が抽出された。

「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。」のねらいに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「食べ物への興味関心を持つ。」「自分から身の回りを清潔にしようとする。」「体の異常を自分から

訴えようとしたり、危険な遊びや場所に気付いたりする。」「衣服や靴を自分で着脱し、畳んで所定の場所に片付けられるようになる。」「決まりや約束を守り、友達や教師と楽しく遊ぶ。」とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「食べ物に興味を持つ。」「身の回りを清潔しようとする。」「体の異常を表現しようとする。」「衣服の着脱を自分でしようとする。」「衣服をたたもうとしたり、片付けようとしたりする。」「約束を守ろうとする。」が抽出された。

3. 4. B幼稚園の年少児クラスにおける目指す幼児像の明確化に向けた取り組み

年少児における幼稚園教育内容「健康」のねらいとそれに基づいて作成したB幼稚園の内容

表5 B幼稚園の年少児における活動内容と実際の幼児の姿及び目指す幼児像

ねらい	幼稚園教育要領「健康」の内容に基づいたB幼稚園の内容	実施した活動内容	実際の幼児の姿	目指す幼児像
明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	○全身を使って自然や様々なものと関わったり、友達と一緒に遊ぶことを楽しんだりする。 ○園の生活リズムが身に付き、活動する。	・しっぽとりゲーム ・氷おに ・だるまさんが転んだ ・靴とばし ・遊具遊び	・創作遊びだけではなく、走ったり、止まったり、体全体を使った遊びを戸外でするようになっていた。 ・新級・入園当初は、帽子や靴の着脱が自分でできず、教師に頼ることが多かったが、活動の中で、帽子を使用することにより、帽子の着脱がスムーズに行うことができるようになった。	○全身を使って自然や様々なものと関わる。 ○友達と一緒に楽しく遊ぶ。 ○園の生活リズムを身に付ける。
自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	○教師や友達と一緒に体を動かして遊んだり、様々な活動に進んで取り組んだりする。 ○バランスの取れた運動や遊びに挑戦する。	・しっぽとりゲーム ・氷おに ・だるまさんが転んだ ・靴とばし ・遊具遊び ・大型ブロック（迷路）	・新級・入園当初は、一人遊びを好む子が多かったが、しっぽとりや氷おに等の遊びを知るにつれて、教師や友達と簡単なルールのある遊びを楽しんで行うことができるようになった。 ・日々の遊びの中で、ブロックを長くつなげ、複雑なものにしようとする気持ちが芽生え、その中で、友達と協力し、一つのものを作り上げることができるようになった。	○教師や友達と一緒に体を動かして遊ぶ。 ○活動に積極的に参加する。
健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	○食べ物の美味しさに気付く ○基本的な生活習慣を覚え、自分から行動しようとする。 ○体の痛みに気付き、自分から教師に訴える。 ○様々な体験をする中で、危険な箇所や遊びに気付く。	・給食 ・自転車 ・ゴミ拾い ・衣服の着脱	・給食時を「美味しいね～」と話しかける姿がみられた。 ・ゴミが足の裏についてしまうことで、不快に思いゴミを見つけると拾うようになった。 ・裸足で過ごすことにより、危険なものや場所に気付き、回避する姿がみられた。	○食べ物の美味しさに気付く、進んで食べようとする。 ○基本的な生活習慣を身に付け、自ら行動しようとする。 ○体の痛みに気付き、教師に言葉で伝える。 ○体験を通して危険に気付く。

を示し、実際に実施した活動内容と幼児の様子から目指す幼児像の明確化を図った(表5)。

幼稚園教育内容「健康」のねらいとそれに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。」のねらいに基づいて、「全身を使って自然や様々なものと関わったり、友達と一緒に遊ぶことを楽しんだりする。」「園の生活リズムが身に付き、活動する。」とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「全身を使って自然や様々なものと関わる。」「友達と一緒に楽しく遊ぶ。」「園の生活リズムを身に付ける。」が抽出された。

「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。」のねらいに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「教師や友達と一緒に体を動か

して遊んだり、様々な活動に進んで取り組んだりする。」「バランスの取れた運動や遊びに挑戦する。」とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「教師や友達と一緒に体を動かして遊ぶ。」「活動に積極的に参加する。」が抽出された。

「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。」のねらいに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「食べ物の美味しさに気付く。」「基本的な生活習慣を覚え、自分から行動しようとする。」「体の痛みに気付き、自分から教師に訴える。」「様々な体験をする中で、危険な箇所や遊びに気付く。」とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「食

べ物の美味しさに気付き、進んで食べようとする。』、「基本的な生活習慣を身に付け、自ら行動しようとする。』、「体の痛み気付き、教師に言葉で伝える。』、「体験を通して危険に気付く。』が抽出された。

3. 5. B幼稚園の年中児クラスにおける目指す幼児像の明確化に向けた取り組み

年中児における幼稚園教育内容「健康」のねらいとそれに基づいて作成したB幼稚園の内容を示し、実際に実施した活動内容と幼児の様子から目指す幼児像の明確化を図った(表6)。

幼稚園教育内容「健康」のねらいとそれに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。』のねらいに基づいて、「全身運動のバランスがとれ、複雑な運動や様々な遊具・用具等を取り入れて遊ぶことができる。』、「生活の整え、生活リズムを身に付ける。』とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「全

身運動のバランスがとれる。』、「様々な遊具等を取り入れて遊ぶ。』、「朝、帰りの支度を一人で行う。』の3つの側面が抽出された。

「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。』のねらいに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「友達と一緒に感じたこと・想像したことを発展させながら、様々な運動あそびをする。』とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「想像したことを発展させて遊ぶ。』が抽出された。

「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。』のねらいに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「友達と食べることを楽しさを知る。』、「自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動に興味を持つ。』、「危険な箇所や遊具の取り扱いを理解し、危険な内容を考え、判断して安全に遊ぶ。』、「進んで休息をとり、静と動の調和を図る。』とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子

表6 B幼稚園の年中児における活動内容と実際の幼児の姿及び目指す幼児像

ねらい	幼稚園教育要領「健康」の内容に基づいたB幼稚園の内容	実施した活動内容	活動内容の幼児の様子	目指す幼児像
明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	○全身運動のバランスがとれ、複雑な運動や様々な遊具・用具等を取り入れて遊ぶことができる。 ○生活の整え、生活リズムを身に付ける。	・しっぽとりゲーム ・なわとび ・石拾い	・全身を使って遊びことができ、なんでも挑戦しようとする意欲が見られるようになった。 ・遊具等の使い方を知って、友達と遊ぶ姿が見られた。 ・身支度の仕方を知り、自ら進んで行う姿が見られる反面、できないことやわからないことがあると教師に尋ねる子どももいた。	○全身運動のバランスがとれる。 ○様々な遊具等を取り入れて遊ぶ。 ○朝、帰りの身支度を一人でやる。
自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	○友達と一緒に感じたこと・想像したことを発展させながら、様々な運動あそびをする。	・大型ブロック	・友達と協力して一つのものを作り上げ、できた喜びを共感することができ、バランス感覚が養われる姿が見られた。	○想像したことを発展させて遊ぶ。
健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	○友達と食べることを楽しさを知る。 ○自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動に興味を持つ。 ○危険な箇所や遊具の取り扱いを理解し、危険な内容を考え、判断して安全に遊ぶ。 ○進んで休息をとり、静と動の調和を図る。	・全員給食 ・滑り台 ・ブランコ ・ロープ登り ・木かけや屋根のある場所で休息	・家庭では、食べないものでも、友達が食べている様子を見て、自分から食べようとする姿も見られた。 ・前に使用している人がいたら、待つことや「貸して」と言うことができ、順番を守ることができるようになった。 ・自由遊びの時など、休息をとる子、教師に疲れたことを訴える子どももいた。	○友達と楽しく食べる。 ○戸外から帰った後、食事の前は自ら進んで手洗い・うがいをやる。 ○危険な箇所や遊具の取り扱いを理解する。 ○危険のないように遊ぶ。 ○疲れた際は自ら進んで休息する。

を検討した結果、目指す幼児の姿として、「友達と楽しく食べる。」「戸外から帰った後、食事前は自ら進んで手洗い・うがいを行う。」「危険な箇所や遊具の取り扱いを理解する。」「危険の内容に遊ぶ。」「疲れた際は自ら進んで休憩する。」が抽出された。

3. 6. B幼稚園の年長児クラスにおける目指す幼児像の明確化に向けた取り組み

年長児における幼稚園教育内容「健康」のねらいとそれに基づいて作成したB幼稚園の内容を示し、実際に実施した活動内容と幼児の様子から目指す幼児像の明確化を図った(表7)。

幼稚園教育要領「健康」のねらいとそれに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。」のねらいに基づいて、「全身運動が滑らかになるとともに、手や指の動きは細やかになり遊びの工夫がみられる。」のねらいに基づいて、「全身運動が滑らかになるとともに、手や指の動きは細やかになり遊びの工夫が

みられる。」「教師や友達とできることを創意工夫しながら、自身の安定感を持って、活動し充実感を味わう。」「友達と生活の場を整え、見通しを持って生活する。」とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「教師や友達と楽しく戸外で遊ぶ。」「手や指をうまく使いながら全身運動を行う。」「朝、帰りの支度を自ら進んで行う。」「タイムスケジュールを見て、次の支度は何か見通しを持ち行動する。」が抽出された。

「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。」のねらいに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「運動あそびに目的をもち、見通しを立てて行動し、体験したことを工夫しながら表現し、発展させようとする。」とした。

次に、実際に実施した活動内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、

表7 B幼稚園の年長児における活動内容と実際の幼児の姿及び目指す幼児像

ねらい	幼稚園教育要領「健康」の内容に基づいたB幼稚園の内容	実施した活動内容	実際の幼児の姿	目指す幼児像
明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	○全身運動が滑らかになるとともに、手や指の動きは細やかになり遊びの工夫がみられる。 ○教師や友達とできることを創意工夫しながら、自身の安定感を持って、活動し充実感を味わう。 ○友達と生活の場を整え、見通しを持って生活する。	・おにごっこ ・うんてい ・吊り輪 ・仕度スケジュール	・個々に応じて段階を踏んで進めていき、体の使い方を工夫しながら、全身を使えるようになった。 ・自らスケジュール等を確認し、見通しを持ち、必要な準備を進んで行っていた。	○教師や友達と楽しく戸外で遊ぶ。 ○手や指をうまく使いながら全身運動を行う。 ○朝・帰りの支度を自ら進んで行う。 ○タイムスケジュールを見て、次の支度は何か見通しを持ち行動する。
自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	○運動あそびに目的をもち、見通しを立てて行動し、体験したことを工夫しながら表現し、発展させようとする。	・組体操 ・なわとび ・持久走 ・ドッジボール	・単純な技から難しい技への挑戦・発展を喜び、友達と協力してやり遂げることができる。 ・回数からタイムへの移行し、タイムを伸ばすことや友達と競うことを楽しむ姿があった。	○活動に目的及び見通しをもって行動する。 ○体験したことを工夫し発展させて遊ぶ。
健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	○友達と楽しく食べることを知り、食の大切さに気付く。 ○体を守ることを理解し、健康・清潔・危険・病気・災害等、どのようにしたらいいのか、おおよその判断力を持つ。 ○危険を回避する能力、危険の有無を理解し、自己統制ができる。 ○健康に必要な生活習慣を理解し、自ら進んで行動する。	・給食 ・美化活動 ・避難訓練 ・自転車 ・手洗い・うがい ・歯磨き	・食事に対して感謝の気持ちを持つ子どもが増えた。 ・園外へ出た際、歩道の歩き方や横断歩道の渡り方など、身の回りの危険を考えながら、交通ルールを身に付けていた。 ・避難訓練では、訓練の放送をよく聞き、地震・災害のそれぞれの場面で、どのような動きで身を守れば良いかを判断し、行動できた。 ・生活の中で自ら進んで手洗い、うがいをしようとする姿がみられるようになった。	○食の大切さに気付く。 ○交通ルールや災害時等のルールについて理解し、判断して行動する。 ○危険から体を守ることを理解する。 ○自ら進んで健康的な生活を送るために必要な習慣を理解し行動する。

「活動に目的及び見通しをもって行動する。」「体験したことを工夫し発展させて遊ぶ。」が抽出された。

「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。」のねらいに基づいて作成したB幼稚園の内容は、「友達と楽しく食べることを知り、食の大切さに気付く。」「体を守ることを理解し、健康・清潔・危険・病気・災害等、どのようにしたらいいのか、おおよその判断力を持つ。」「危険を回避する能力、危険の有無を理解し、自己統制ができる。」「健康に必要な生活習慣を理解し、自ら進んで行動する。」とした。

次に、実際に実施した活用内容と幼児の様子を検討した結果、目指す幼児の姿として、「食の大切さに気付く。」「交通ルールや災害時等のルールについて理解し、判断して行動する。」「危険から体を守ることを理解する。」「自ら進んで健康的な生活を送るために必要な習慣を理解し行動する。」が抽出された。

4. まとめ

本稿では、幼稚園における生活の全体を通じて、取り分け領域「健康」と関わりが深い活動に焦点をあて、カリキュラム・マネジメント構築を目指し、幼稚園教育要領「健康」のねらいに基づいて作成したB幼稚園の具体的内容の作成と次回のカリキュラム編成に反映する手がかりになると考える、B幼稚園の実態に即応した目指す幼児像の明確化を図り、次のような知見を得ることができた。

満3歳児クラスでは、①基本的な運動あそびを楽しむ、②園生活に慣れる、③体を動かす遊びを楽しむ、④食べ物に興味を持つ、⑤身の回りを清潔しようとする、⑥体の異常を表現しようとする、⑦衣服の着脱を自分でしようとする、⑧衣服をたたもうとしたり、片付けようとしたりする、⑨約束を守ろうとする、となった。

年少児クラスでは、①全身を使って自然や様々なものと関わる、②友達と一緒に楽しく遊ぶ、③園の生活リズムを身に付ける、④教師や友達と一緒に体を動かして遊ぶ、⑤活動に積極

的に参加する、⑥食べ物の美味しさに気付き、進んで食べようとする、⑦基本的生活習慣を身に付け、自ら行動しようとする、⑧体の痛みに気付き、教師に言葉で伝える、⑨体験を通して危険に気付く、となった。

年中児クラスでは、①全身運動のバランスがとれる、②様々な遊具等を取り入れて遊ぶ、③朝、帰りの支度を一人で行う、④想像したことを発展させて遊ぶ、⑤友達と楽しく食べる、⑥戸外から帰った後、食事前は自ら進んで手洗い・うがいをを行う、⑦危険な箇所や遊具の取り扱いを理解する、⑧危険の内容に遊ぶ、⑨疲れた際は自ら進んで休憩する、となった。

年長児クラスでは、①教師や友達と楽しく戸外で遊ぶ、②手や指をうまく使いながら全身運動を行う、③朝、帰りの支度を自ら進んで行う、④タイムスケジュールを見て、次の支度は何か見通しを持ち行動する、⑤活動に目的及び見通しをもって行動する、⑥体験したことを工夫し発展させて遊ぶ、⑦食の大切さに気付く、⑧交通ルールや災害時等のルールについて理解し、判断して行動する、⑨危険から体を守ることを理解する、⑩自ら進んで健康的な生活を送るために必要な習慣を理解し行動する、となった。

5. 今後の課題

本稿では、対象幼稚園の実態に即応した目指す幼児像についての系統性について深く考察をすることができなかった。よって、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」や小学校の学びを念頭に置き、幼児の発達段階に応じた「何ができるようになるのか」、「何をまなぶか」について、検討を深める必要があると考える。

また、今回は、領域「健康」に焦点をあて論じたが、他4つの領域についても検討し、各領域との相互関係を考察する必要であろう。

カリキュラム・マネジメントの構築とは、PDCA（計画—実行—評価—改善）のサイクルが連続的に続く指導内容の評価と改善、実施であり、教育現場の実態に応じた、より簡易化された評価表の作成について早急に取り組む必要があると考えられる。

参考・引用文献

- 朴 信永 (2017) 協働によるよりよい幼児教育を目指したカリキュラム・マネジメントの実践について. 椋山女学園大学研究論集, 48 (社会科学編), 141-149.
- 林富公子 (2011) 幼児期の教育課程と指導計画に関する研究の動向—日本保育学会における口頭発表 (1985~2009) を中心に一園田学園女子大学論文集, 45, 259-268.
- 文部科学省 (2016) 幼児教育部会における審議の取りまとめについて (報告)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/sonota/__icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377007_01_4.pdf2020.9.28閲覧.
- 文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領.
- 文部科学省 (2018) 幼稚園教育要領解説.
- 文部科学省 (2019) 幼児理解に基づいた評価.
- 無藤隆・汐見稔幸・砂上史子 (2017) ここがポイント! 3法令ガイドブック. フレーベル館.
- 長瀬美子・田中伸・峯恭子編著 (2014) 幼児教育におけるカリキュラム・デザインの理論と方法. 風間書房.
- 横松友義 (2017) 各幼稚園でカリキュラム・マネジメントを成立させるための研究者の協働の構想. 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 166, 41-51.
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2017) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領.
- 奥山順子・山名裕子 (2006) 幼稚園教育における計画の位置づけ—保育者の意識調査にみる保育の計画と保育者の専門性—. 秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学部門, 61, 83-90.
- 鈴木智子・鈴木香奈恵 (2017) 幼児教育・保育におけるカリキュラム・マネジメントの工夫と課題. 仁愛大学研究紀要. 人間生活学部篇, 8, 83-91.